



自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

夢への背中 大原 聡美（海自大原二士母）

進路について娘は、大学に進学すると思っていた。高校二年春の進路選択の時、娘から話があると呼ばれて席につくと、テーブルには自衛官募集パンフレット等が並べられていて「海上自衛官になりたい！」と言われました。正直私は驚いて「えっ？」「の一言が口からこぼれたのを今でも忘れません。私自身、自衛官がどのような仕事なのかについて全く知識が無く、目の前の資料を端から端まで読んだのを覚えています。

娘の志望は揺らぐ事なく決意は固いまま高校生活を送りました。高校在学中に群馬地本高崎地域事務所に通い、また多くの見学会等に参加し担当の女性広報官にはとても可愛がって頂きました。娘が高崎地域事務所から家に戻ると、自衛隊のいろいろな話をしてくれて本当に楽しそうでした。広報官の方々は本当に面倒見がよく、娘が心から頼りにしているのがよくわかりました。しかしその気持ちとは反対に私は自衛官になる事に対して心配だらけでした。しかしながら、ある時娘が「自衛官の仲間はどうしても入りたい！」と私に言うてきました。その言葉を聞いて娘の本当の気持ちが理解でき、心配していたも仕方ないので自衛官への夢の背中を押そうと決めました。

地本の方々とのお会いが無かったら私は自衛官の魅力が分からなかったです。娘はこれほどまでに「自衛官の仲間に入りたい。」と思わなかったかもしれません。入隊出発の時、娘はとても笑顔で、私自身も心配はありませんでした。教育隊での辛い厳しい訓練も地本の方々が心の支えとなり頑張っているのだと思います。一日でも早く自衛官の仲間になれる様に私は娘を応援し続けたいと思います。



エフエムラジオ放送を活用した広報



自衛隊群馬地方協力本部（本部長・防衛事務局 井ノ口哲也）は、7月3日（金）前橋市のコミュニティエフエム放送局「まえばしシティエフエム」の番組において自衛官募集の告知をした。7月1日の高校生への募集解禁と合わせて、お昼の約10分間、パーソナリティと本部長とのトーク形式で自衛隊群馬地方協力本部の概要を始め、自衛隊には、戦闘職種、技術職種及び事務職域等の多様な職種があることを紹介した。また、一般曹候補生、自衛官候補生の募集について紹介し、特に運動が得意な人ばかりではない点、平成30年から採用年齢が18歳以上33歳未満に変更された点等を説明した。放送中、スタジオの外では、通行中の人が立ち止まり耳を傾ける等しており、自衛隊の魅力がアピールできたのではないかと考えている。

自衛官募集のPR動画を撮影



群馬地本（本部長・井ノ口事務官）は6月下旬から7月中旬にかけて群馬県内の各地を巡り、自衛官募集のPR動画の撮影を行った。具体的な撮影内容は群馬地本のマスコット「だるまん」が広報官と共に自衛官募集のPRにあわせ観光地を紹介するというもの。撮影場所は、伊香保温泉の石段、2014年にユネスコの世界文化遺産に登録された富岡製糸場、太田駅前の新田義貞像、碓井第三橋梁（通称・めがね橋）、四万ブルーで有名な奥四万湖、上毛三山のひとつである榛名山、邑楽町にあるシンボルタワー・未来MIRARA、縁起だるま発祥の地少林山達磨寺及び草津温泉の湯畑の9か所での撮影を行った。梅雨の時期であったが天候に恵まれ予定していた全ての撮影を行うことができた。撮影中、お孫さんの手を引いたおばあさんが近づいてきて、「一緒に写真を撮りたい」と申し出があった。そこで、カメラを受け取り何枚か撮影したところ、2人共とても喜んでくれた。こうした活動も育てる募集の一環であり、自衛隊への理解を深めてもらうための広報活動の重要な役割だと改めて感じた。撮影された動画及び画像は、群馬地本のホームページ及びツイッターの公式アカウントに掲載している。群馬地本は引き続き、自衛隊をPRしつつ、地域振興に貢献できるよう広報活動を継続していく。